

「M 情報デスク」サポート団体
 救う会大阪 NO! 民主桜組
 米国に原爆投下謝罪を求める会
 大阪の公教育を考える会
 スパイ防止法の制定を求める会
 外国人参政権に反対する会・関西
 日教組の違法行為を告発する市民の会
 竹島を奪還する会・関西
 靖国神社に眠る御霊に感謝する会

MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

関西の
政治・経済・社会
の動きを
追跡する

No. 136
 【発行・編集】
 MASUKI 情報デスク
 増木 直美
 大阪府豊中市上新田 2-6-25-113
 TEL 090-3621-1509
 FAX 06-6835-0974
<http://mid.parfe.jp/>
 mid@jewel.ocn.ne.jp



本

日本人10人尖閣に上陸、地方議員ら11慰霊祭参加者、事情聴取―海保
 124-8-19 時事通信

沖縄県の尖閣諸島周辺海域での慰霊祭に参加した、日本人のうち10人が19日午前8時前、尖閣諸島・魚釣島に上陸した。関係者によると、上陸者10人のうち、5人が地方議員。鈴木章浩東京都議、田中裕太郎東京杉並区議、和田有一朗兵庫県議、小嶋吉浩茨城県取手市市議、小坂英二東京荒川区議。国会議員は含まれていない。魚釣島をめぐる争いは、中国人活動家ら14人が不法上陸するなどした容疑で15日に逮捕され、その後、強制送還されている。中国では19日、中国人活動家逮捕を受け、尖閣諸島の領有権を主張する反日デモや抗議行動が拡大しており、日中関係の緊張度が増すのは必至だ。

第11管区海上保安本部(那覇市)や関係者によると、上陸した10人は船から泳いで魚釣島に渡った。上陸後、日の丸を掲げた。午前9時半ごろに島を離れ、泳いで船に戻ったという。海保の係官が船に乗り込み、上陸者から事情を聴いた。尖閣諸島を管理する政府の許可を得ずに、島に上陸した場合には、軽犯罪法違反になる可能性もある。沖縄県警は上陸した10人が帰港後任意で事情を聴く方針。関係者によると、約150人が18日夜、戦時中に亡くなった人々を洋上で慰霊するために石垣島や与那国島などから約20隻に分乗し出港した。

慰霊祭には超党派の「日の領土を守るため行動する議員連盟」の議員も参加。帰港後、石垣市内で記者会見した会長の山谷えり子参院議員(自民)は、10人が上陸したことについて、「正当化できるものではないかもしれないが、気持ちには分かるような気がする」と述べた。



風呂で鏡のようだった。まるで奇跡だ。そしてまた私が先頭の船に乗っていた。躊躇があった。船長の『今だ!』という声に後押しされた。今飛び込まないと一生後悔すると思ったときは飛び込んでいた。左・島で慰霊祭をするメンバー。中央:水島隊長、右端:和田議員。

和田有一朗兵庫県議ら10名―尖閣上陸

ボチボチケリをつけようぜ！河野談話

慰安婦問題に関する質問趣意書

参議院議員 山谷えりこ

2012.8.10 政府答弁

●慰安婦問題に関する質問主意書

(内閣参質180第210号)

(平成24年8月2日提出、政府答弁書
8月10日)

慰安婦問題については、平成二十二年十月に米国ニューヨーク州パリセイズパーク市の公共図書館に慰安婦記念碑が建立され、平成二十三年十二月にはソウルの日本大使館前に平和の碑・少女像が建てられた。また、平成二十四年五月にはソウルの「戦争と女性の人権博物館」内に慰安婦問題に関する記述が展示された。さらに、同年六月には、米国ナッソー郡アイゼンハワー公園に慰安婦記念碑が建てられるなど、相次いでいる。

これまで日本政府は、委員会での答弁及び各議員から提出された質問主意書に対する答弁書において、その都度韓国側に申入れを行っていると答えている。しかしながら、我が国の立場は韓国側に理解されないばかりか、韓国による一方的な諸外国へのロビー活動は年々活発化し、慰安婦問題に関して事実でないことが真実のように世界に広められていることを危惧している。

よって、以下のとおり質問する。

一 平成二十四年六月に米国ナッソー郡に建てられた慰安婦記念碑について、外務省として抗議したのか。

(政府答弁)

一について

御指摘の碑に関し、政府として、米国ニューヨーク州ナッソー郡関係者等に対し、慰安婦問題についての我が国の立場等を申し入れている。

二 平成二十四年五月に建てられた

「戦争と女性の人権博物館」に関しては、片山さつき参議院議員提出の「従軍慰安婦問題に関する質問主意書」(第百八十回国会質問第一一八号)に対する答弁書(内閣参質一八〇第一一八号)において、「博物館では、慰安婦問題の経緯等について展示されていると承知するが、当該博物館の開設のために大韓民国政府が一部、補助金を出していること、また、当該展示の内容には我が国の立場と相容れないものがあること等を踏まえ、政府として、大韓民国政府に対し慰安婦問題に関する我が国の立場等を申し入れた。」とされている。本博物館建設に当たっては、『日本軍「慰安婦」の名誉と人権のための「戦争と女性の人権博物館」日本建設委員会』により約千七百件に及び個人と団体から寄付が集められ、建設費の約三分の一が同委員会からの寄付によるものだという。政府は当該博物館の展示内容は「我が国の立場と相容れない」という認識であると承知しているが、このように民間から多額の寄付が同博物館にされていることに対する政府の見解を示されたい。

また、寄付を行った団体の中には、自

治労や教職員

組合の名前もあるが、こうした

事実に対する政府の見解を示されたい。

(政府答弁)

二について

お尋ねの博物館の開設のために、我が国の民間の団体等が寄附を行っていることは承知しているが、このような民間の団体等の活動について、政府としてお答えする立場にない。

三 平成四年七月六日と平成五年八月

四日の二度にわたり発表された政府調査資料「いわゆる従軍慰安婦の調査結果について」は、調査対象の機関が警察庁、防衛庁、法務省、外務省、厚生省、労働省、国立公文書館、国立国会図書館及び米国国立公文書館で、合計二百八十三件、二千頁に及びものである。同資料によると、日本軍が悪徳業者による拉致など違法な慰安婦募集が行われないうちに、また、軍や警察がきちんと取り締まっていたことも明らかである。さらに、同資料は徹底分析され、平成十九年には冊子にまとめられている。政府の調査結果を国内はもとより海外に対しても、広く発信していくべきと考えるが、政府の見解を示されたい。

(政府答弁)

三について

政府は、慰安婦問題について、御指摘の調査を行い、平成五年八月四日の内閣官房長官談話により政府の基本的立場を

表明している。当該調査の結果及び当該内閣官房長官談話を外務省ホームページに掲載するとともに、基本的立場について在外公館による説明、国際会議における発言等を行い、対外発信に努めているところである。

四 来年度から高校で使用される検定済教科書のうち、東京書籍発行の日本史Aでは「日本の植民地や占領地では、朝鮮人や中国人・フィリピン人・ベトナム人・オランダ人など、多数の女性が「慰安婦」にかりだされた。」と記述されているが、「かりだされた」とは誰によってかりだされたという意味なのか、政府の認識を示されたい。また、このように主語がはっきりと示されない記述により、誤解が生まれる懸念について、政府はどのように考えるか。さらに、本年度から使用されている中学教科書では、事実と異なる「従軍慰安婦」に関する記述がすべて削除されたが、高校教科書では削除されなかったことについて、政府の見解を示されたい。

右質問する。

(政府答弁)

四について

教科用図書の検定は、申請図書の具体的な記述について、教科用図書検定基準等に従い、教科用図書検定調査審議会の調査審議に基づいて、検定の時点における客観的な学問的成果、適切な資料等に照らして記述内容及び表現を指図する「記述基本

申請図書著作等判断に委ねている。したがって、御指摘の教科用図書の記述において誰によって「かりだされた」かについて述べていないことに関し、お尋ねの認識及び懸念に対する考えについては、お答えを差し控えたい。なお、本年度から使用されている中学校の教科用図書については、平成二十二年度の検定における申請図書に、慰安婦に関する記述がなかったものである。

総裁選の争点は「河野談話」の白紙撤回だ 2012.9.5

主権回復を目指す会 西村修平

要 請 文

一今こそ決断の好機！自民党は「河野談話」の白紙撤回を――

自由民主党 総 裁 谷垣 禎一 殿
副総裁 大島 理森 殿
幹事長 石原 伸晃 殿
自民党全議員 殿

平成24年9月5日
主権回復を目指す会

河野談話の白紙撤回を求める市民の会

【歴史捏造に迎合した「河野談話」】

「強制連行の事実を確認できなかった」と正論を述べた野田佳彦首相らの発言を受け、韓国外交通商省報道官は8月28日の会見で「おわびと反省」を表明した平成5年の河野洋平官房長官談話を否定するものとして、「非常に不適切だ。被害者自身が証拠だ。これまでの反省を無効にする行為にしか見えない」と反応した。



9月5日 自民党本部前

来ない。それにも拘わらず、これほどのデタラメを、自民党は資料的根拠も裏付けもないまま、韓国側の要請に従って慰安婦募集における日本軍閥との強制性を認めてしまった。

日本の統治下にあった朝鮮半島では公娼制度があり、その庇護の下で慰安婦たちは日々の生業(なりわい)を営んでいた。その朝鮮人慰安婦らが日本人を相手に春を驚(ひさ)いだところで、何故に我が日本が朝鮮人慰安婦らへ「お詫びと反省」し、金銭補償をしなければならぬのか。朝鮮人の強請とたかり以外の何ものでもない。

「強姦魔」の汚名を着せた自民党 その口実を与えたのは偏にその場しのぎの問題先送りの産物である「河野談話」であり、慰安婦強制連行の歴史捏造を定着させたうえに、朝鮮人の強請とたかりに絶対的根拠を与えた。

従って、日本はこの「河野談話」を突きつけられたら慰安婦強制連行を認めざるを得ない。その場しのぎの問題先送り、利権分配を生業(なりわい)にしてきた自民党の伝統的手法が、如何にわが国の国益を害してきたことが、日本国民に「強姦魔」の汚名を着せた犯罪的行為、まさに万死に値する行為とはこのことを指す。

相手を慮(おもんば)った日本に対して、韓国は初めて、「河野談話」をタテに日本へ謝罪と補償を突きつけてきた。もつ、その場しのぎの問題先送りは通用しない。亡国の道を行くのか。

「河野談話」の白紙撤回で韓国の歴史捏造と戦う道か。残された対応は二つに一つしか道はない。

【総裁選の争点に「河野談話」の白紙撤回を】

この「河野談話」は当然といえば当然だが、民主党が政策として引き継いでいる。民主党は自民党の売国政策を受け継いでいるにしか過ぎず、自民党が民主党をあれこれ批判する資格など欠片もない。今、自民党に求められている国民・有権者への最大責務は「河野談話」の白紙撤回以外にあり得ない。

自民党は運動方針「前文」において、「昨年来、私たちが目の当たりにしたものは、領土の防衛に対する覚悟もなく、国家の主権さえも守れない、誇りを失った『日本』の姿である」と言い切っている。「誇りを失った『日本』」とはよくぞ言ったものである。盗っ人猛々しいにも程がある。「失った」のではなく、自民党が自ら投げ捨てたのだ。他人事のように責任を民主党に転化するものではない。

「河野談話」で、国家の主権も、国民の誇りもズタズタに切り裂いた張本人こそが自民党だ。繰り返して強調するが、自民党に課せられた最大責務は「河野談話」の白紙撤回である。その最大の好機は来る総裁選の今において他になく、各総裁選候補者は「河野談話」の白紙撤回掲げ、党員並びに国民に対してその信を問うべきだ。「河野談話」の白紙撤回こそ総裁選の争点に最も相応しい課題である。

総裁選の各候補者に訴える。「河野談話」の白紙撤回を抜きにした、自民党の政権復帰などは、心ある国民は絶対に許さない。

従軍慰安婦問題

橋下大阪市長の記者会見

フログ高知 2012・8.24

赤旗 先日の慰安婦問題なんですけど、赤旗のフジワラです。

慰安婦問題で、「強制の事実は今のごとく確たる証拠はない」とおっしゃられました。河野談話を見ていると、「軍当局の要請により設営され」「管理」された慰安所で「総じて本人たちの意思に反して」強いられ被害だという感じで強制の事実を認めていると思うんですけど、河野談話については見直すべきだという考えなんです。

橋下 いや、二〇〇七年の閣議決定はどう書かれていました？

赤旗 ……。

「筆者注・二〇〇七年の閣議決定」といっていますが、これは、安倍晋三政権時代の辻元清美衆院議員の質問主意書への答弁書（二〇〇七年三月十六日）のことをいっているようですね」

橋下 いや、だから、そのお、自分の関心のあるところだけ、赤旗は調べて、もうちょっと鳥の目というか、全体の視野をもたないと、自分の関心の持っている河野談話のところだけをとりあげていますけれども、二〇〇七年の閣議決定では、強制連行の事実を直接示す記述は見当たらないかと、そういう閣議決定が安倍内閣のときに出されています。

だから、僕は歴史家ではありませんからね、すべての資料について、古文書等を含めて行政文書を含めてぜんぶそういうことを調べたわけではないので、僕は政治家として、九三年の河野談話とそれからそれについての二〇〇七年の閣議決定、こ

の二つをもとにして、自分の意見を組み立てているわけです。だから、河野談話でいろんな表現はあるけれども、しかし、二〇〇七年に強制連行を示す、それを裏付けるような、直接示すような記述、直接のその証拠はなかったということも二〇〇七年の安倍内閣のときに閣議決定はされているわけです。

そうですね。それであれば、河野談話の中身をもう一度しっかり、疑義がないように、内容を見直すのか、それとも二〇〇七年の閣議決定が間違っていたか、どちらかですよ。で、僕は、やっぱり二〇〇七年の閣議決定というのは、河野談話を出した以降、それは日本政府がそういう閣議決定をする以上はやっぱりそれは責任をもってやっていると思いますよ。河野談話は閣議決定されていませんよ。それは河野談話は。談話なんです。だから、日本政府が、日本の内閣が正式に決定したのは、この二〇〇七年の閣議決定だった安倍内閣のときの閣議決定であって、この閣議決定は慰安婦の強制連行の事実、直接裏付けられていないという閣議決定が日本政府の決定です。河野談話は閣議決定じゃないですから。官房長官の談話なんでね。

じゃあ、そういう二つの文書が出てきたときに、二つの政府からの意思表示が出てきたときに、官房長官の談話と、それから政府の、内閣の閣議決定、どちらを尊重するのかといったら、どちらですかね？ 赤旗さん。それでも河野談話ですか？

談話と閣議決定の法的なその、位置づけなんです。まず一般論をどう思われます？ 官房長官の談話と閣議決定というのはどちらの方が重いんで

すかね？

赤旗 あのお、ちょっとそれは…。

橋下 いやいや、まずそこをね。この間のMBS「毎日放送」の記者と同じで、まずきちんと、そこをまず確定しないと、自分の気になる一般論と…。

赤旗 閣議決定の方が、一般論としては、重い…。

橋下 当たり前ですよ、そんなのは。一官房長官の談話なんかより閣議決定に決まってるでしょ一官房長官の談話じゃなくてね。閣議決定ってね、内閣全員の署名が必要なんです。これは。

赤旗 ただ、その官房長官の談話は、いろいろ政府として調査した上で、いろいろな資料にあたって出てきているわけですよ。だから…。

橋下 閣議決定もそうじゃないですか。どちらの方の調査の方が信を置かなきゃいけないんですか。日本政府、わが日本国の意思表示として？ そりや談話なんていうのはだれでもがやっていますよ。談話っていうのは。そんな普通の記者でちょっと調べればね、普通の知識があれば、談話と閣議決定、こんなの天地の差がありますよそんなのは。

それは僕ら公（おおやけ）の仕事をやっていますから、文書のポジションといえますか、そういうものは非常に重要なわけであってね。それは、例えば市長が何か意見を出した。これは個人的な意見ですとか。いや意見交換の中で出た。まだきちんとした組織として決定をしていないコメントですといったとね、戦略会議できちんと決定した意見ですといったとは、これは全然違いますよ。

官房長官談話というのは官房長官の談話なんです。閣議決定は政府の決定なんです。官房長官談話は閣議決定していま

せんよ。

ただ、官房長官談話を僕はね、いまのこの段階で全否定できるだけの歴史的なそういう知識とか、僕は歴史家ではありませんから、全否定をするつもりはありませんけれども、しかし、日本政府が二〇〇七年に閣議決定をやっているその中でね、強制連行の事実がなかった、強制連行の事実を示す証拠はなかった。だから、事実があったかどうかではなくて、その証拠がなかったといっているんです。だから僕が知っているのは事実論じゃなくて証拠論なんでね。

だから証拠がないというふうになったのであれば、証拠をやっぱりちゃんと見つけてきましようよということなんです。吉田清治さんの一あの何でしたっけ、名前忘れちゃったけど著作ですよ、あれもあとでは虚偽の主張だったということが、あとでこう、いろいろそういうことが話題になったりとか、吉見さんという方ですか、あの方が強制連行という事実というところまでは認められないという発言があったりとか、まあこの強制連行の事実については、いろんな意見があるなかでね、それでも日本政府は国家としての意思表示として二〇〇七年に強制連行の事実を裏付ける証拠はなかったということも閣議決定したわけですから、僕は韓国側のほうにね。事実の有無を問題視しているわけじゃないですよ。証拠の有無なんです。だから、日本政府が調べた限りでは証拠はなかったと。

それからチエジュ島のかたの新聞社が何かが、現地調査、吉田清治さんの事実について本当かどうかをチエジュ島のほうで確認したら、そういう事実はないというふうな話があったとか、あいや

いやあの、そういう事実がないというね、そういう報道をチェジュ島の方の新聞社がしたとか、いろんなあの、そういう情報ばもう調べればいくらでもでてくるわけです。じゃあ、いろんな情報があるなかで、じゃあ、強制連行の事実を裏付ける証拠はあったのかどうかといえば、それは日本政府としてはそういう証拠はなかったといっているわけです。で、僕が今回この発言をしたら、韓国サイドのメディアが「証拠は河野談話だ」といってきたわけです。

これは、たいへんな日本政府の大失態ですよ、これは。河野談話は証拠じゃないんですから、これ僕ら裁判やるときに事実の主張と証拠というのは、これ全然次元の違うものです。

事実の主張というのは証拠があるなしにかかわらず、事実として、認識を表明すること。その認識を表明したことに、これは証拠があるかどうかというのは、河野談話というのは事実主張の段階なんですよね。まだね。だって、河野談話はああいふふういろいろな問題、官房長官が談話を出されましたけれども、あれはそういう認識を表明しただけ。証拠があるということではないわけです。

それを韓国側の方が、あの河野談話が強制連行を裏付ける証拠だというのはこれはまったく論理的に間違っています。だから僕は韓国サイドのほうに強制連行の事実の有無の問題についてね、証拠があるんだしたら、出してくださいと。

いろんな証言者がいましたけれども、この証言者の証言のいろんな変遷についても、いろんなところでそんな情報なんかでまわっているじゃないですか。だからいまのところは日本においては

客観的な証拠はない。

韓国サイドのほうに証拠があるというんだしたら、それをしっかり出してもらいたい。だから河野談話で重要なことは、軍の関与。僕はだからね、軍の関与までは否定していません。

それはあの慰安所というね、そういう施設の性質からすれば、やっぱり公的な管理というものはしないと衛生上、秩序上、それから戦時下という状況上、これは公的な管理が必要ですよ。それは。だって今だって風俗営業というのは公安委員会の管理下におかれていますから、風俗営業は。ある意味、慰安所という施設の性質からすれば公的な管理は必要。公的な管理があったということ、それからそこで働か、働いていた慰安婦のみなさんが、強制的に連れて来られて無理やり働かされていたかどうかというのとは別問題ですよ。施設を公的管理していたことと、慰安婦を無理やり連れてきたっていうことは別問題。

それから、本人の意思に反してということとをたぶん、赤旗は問題視するんだと思うんです。河野談話のなかの。しかし、「本人の意思に反して」というのは、これは法律の用語でもね、二つの意味があって、本人が不本意に感じているという意味とね、それから第三者から強制的にやらされたっていう、この二つの意味が「本人の意思に反して」というその言葉に入るわけです。だからこれは僕は裁判でやればそれはどっちなんだというのを確定するわけです。こ

んなの当たり前の話なんです。本人の意思に反してといったときに、これはいろんな性犯罪とかそういうときに、本人の意思に反してという話になったときには、それは不本意だったと、本人は

「強制されたわけではない、やっぱりそこで働く」という自らの意思で言ったんだけれども、でも内心はやっぱり本当はやりたくなかったんだよというような不本意の意味とね。

それから第三者に強制的に無理やりやらされたというというのは、これはね、本人の意思に反してというのは二つの意味があって、これはどちらの意味なのかというの、ものすごい重要なので、やっぱり政治家が、そこでちゃんと法律家がいなかったのか。河野談話をつくった作文者は誰が知りませんけど、「本人の意思に反して」ということを入れちゃったものだから、不本意という意味なのか、強制的の意味なのか、はつきりさせずに本人の意思に反してという言葉を入れたもんですから、これはね、大変な問題になりましたよ。

強制的の意味にやっぱりとられかねないですよ。だから、河野談話というのはいろいろ問題があります。だから僕は、河野談話をいまの段階で全否定するつもりはないけれども、軍の関与があったということは間違いではないでしょう。軍が一定の管理をしていたということは間違いではないでしょう。そういう資料はいっぱいあるということとも、これも、事実みたいです。

だけれども、慰安婦自体が強制的に暴行脅迫を受けて連れてこられたということとは、そういう証拠はないというふうにいっているんですね。あとね、そういう慰安婦とか慰安所という問題、これが倫理的にどうなのかっていうような問題です。

強制的に連れて来られたのでなければ、慰安所という存在がどうなのかという問題です。慰安婦という存在がどうなのかという問題ですけれども、倫理的にみれば、それはやっぱりかわいそうだなと、そういういろいろ不本意にそういう

仕事について、いろいろ心身ともに苦痛をこうむったということとかはかわいそうだなという思いはそりゃあね、人間としてそういう感情が沸き起こるのは当然だと思えますけれども、しかしそれを、日本のがニッポン国が、軍や官憲が強制的に連れてきたということでないという前提で、そういうしんどい仕事について大変でしただねっていう気持ちを表すのは、それは僕は否定しませんけれども、しかし、強制的に連れてきたわけではないということをはっきりした上でね、そういう気持ちを表さないと、このかわいそうですねというのは、やっぱりこれは謝罪とはまた別です。

あの、同情と謝罪は違います。

だから、河野談話っていうのは非常に問題で、僕はやっぱりああいふ形で、ちょっと自分の主張をね、大阪市長という立場では、外交問題だから行き過ぎたのかもわかりませんが、大阪維新の会の代表としてね、河野談話と二〇〇七年の閣議決定の、この二つの法的な文書をもとに僕の見解をのべたら案の上、韓国サイドの方は強制連行の事実はい九三年の河野談話だと言ってきた。これはたいへんな日本政府としては大失態で、ただちにこれは是正すべきですね。事実と証拠は違ふんです。河野談話は証拠ではありません。二〇〇七年には強制連行の事実を裏付ける証拠はなかったという日本政府の閣議決定があります。

赤旗 証拠がないという政府の話は、おそらく公文書とか、そういうのになんていう？

橋下 そうですね。

赤旗 それで、そうすると、韓国側の人とか、いろんな証言があるじゃないかとか、歴史学界の人は、証言の中でも、

かなり揺れないようにいろいろ検証したのもあるとかいっているが？

橋下 だから、それをたたかわせたらいいじゃないですか。

そのなかで証言者の中から、もう名前が出てくるから出してもいいんじゃないでしょうか、キムさんという人ですかね。

最初いろんな問題出されたその方は裁判まで起こしたけど、実は自分は身売りされたんだと。

日本の官憲に強制的に連れて行かれたのではなくてね、いわゆる公娼制度といいますが、そういう慰安所というところに身売りされたんだということの事実も訴状の中に入っていたということもあるしね。だから、それはね、いろんなそういう証言があったりとか、いろんなものがあると思うので、だからそれを整理したらいいじゃないですか。日本政府は公文書だけじゃないですよ。

いろんなその証言者。河野談話出す前の証言者にも聞き取りをやったわけで、その聞き取りも踏まえて、やっぱりその聞き取りが揺れに揺れて、その証言というものが客観的な証拠にならなくなかったという判断のもとにね、二〇〇七年の閣議決定をやったわけですから、これは日本人なんだから、なにも自分たちで証拠もないのに、悪い方悪い方に考える必要ないじゃないですか。ちゃんとだね、事実の有無をね、いまのこの段階で確定しなくても、証拠の問題にもっていつて、もう一回だから、日本政府はないっていつているんだから、あるというなら、赤旗が出てきたらいいじゃないですか。こういうものがある、こういうものがあると、どんどん出してください。「赤旗」は、市役所でもとってますから、見ときます。だから、慰安婦の問題

についてはね、二つの問題を間違っちゃいけないんですよ。

強制的に連れてきた。これはね僕は、やっぱりあつてはならない、もしそういうことがあつたんだしたら、これは謝らなければいけないですよ。強制的に連れてきた、強制的にやらしたということであればね。しかしね、慰安所というものは、慰安所という存在自体について、韓国側の主張というのは、それがどっちかがよくわからない。

強制的に連れてきたことを問題視しているのか。慰安婦とか慰安所の存在自体を問題視しているのか、もし、慰安所とか慰安婦だけの問題ということであれば、これは日本国だけじゃないですよ。慰安所、慰安婦というのは、もっといえば、現代社会にあつても、同じような状態、これは各国の法制度によつては違いますけれども、いわゆるそういう性を商売にするということこれは世界各国でもあるわけです。こういう問題について倫理的にそれはよくないとか、働いている人、いろんないきさつがあつてそういうふうになったことは、それは、かわいそうですねと。違う職業につこうとするんであつたら、それはサポートしますよという話と、強制的に連れきたからそれはごめんなさいという話はこれは別問題ですよ。赤旗の記者のおたくはいままで風俗営業にいったことないんですか？

風俗店。ないんですか。ないんですか。赤旗 はい。

橋下 いままでに？ ああそうですね。じゃあまあ、こんなところではいえないからあれでしょうけど、世の中にそりゃ風俗業なんて山ほどあるわけですよ。そりゃ倫理的にね、どうなんだという考え方はいろいろありますけれども、

しかし、それは強制的に連れてきて無理やり働かせたということではなければ、それはもう倫理の問題ですよ。謝罪の問題とかじゃないです。だからこの従軍慰安婦の問題というものは、やっぱり二つ整理をして、慰安婦の問題、慰安所、これを軍が管理をしていた、それは軍の管理というのは秩序とか衛生上の問題でまあ管理をこれはしなきゃいけないそういう施設だから、そういう話と、無理やり慰安婦を連れてきたのかどうかという話と二つ分けて、いまは前者にしか証拠がありません。軍が慰安所を管理をしていましたということの証拠しかない。慰安婦を強制的に連れてたという証拠はない。そこを曖昧に書いたのが河野談話で、だからそれは河野談話というものは、慰安婦を強制に連れてきたことまでを認めたのか、軍が一定の管理をしていたということを確認したのか、そこをはっきりさせないというのが河野談話の一番の問題点ですね。これが日韓関係を一番こじらせている最大の元凶です。

結局、こういうことをやって、こういう領土問題にまで発展していつてしまった。僕は河野談話というものが、今回の日韓紛争のなかの一番の問題。まあいわゆる僕が最近言っている言葉からすればね、日韓関係を修復する一番のセンターピン。これは韓国サイドからしたら、激しい批判が来ると思います。反発くると思います。それでいいじゃないですか。日本は日本です。しっかり主張して、証拠のあるなしをしっかりと検討して、証拠が出てきたら、これはやっぱり日本国家として謝らなければいけない。証拠がないんだしたら、これは謝る問題ではなくて、それは大変でしたねと。そのときの状況で慰安婦、慰安所というのはいろんな軍がそういうものを併設している場合もあれば、その性を商売に

するという職業もある。そういう問題として倫理的にどう考えるのかという問題にすべきであつて、謝罪の問題ではない。だから、そこをあいまいにした日本政府の態度が一番これ、だめなんですよ。そういう答弁をつくったことに関して政治家がきちんとそういう方針を示さなかったということが、今日における日韓関係をこじれさせている最大の原因だと思えますよ。ただ、僕は歴史家ではないですから、河野談話と二〇〇七年の閣議決定の二つの日本政府の認識の表明されている、この二つをもつていま僕はそういう立場を表明しているんですけどね。

女性記者

そしたらですね、元慰安婦のかたの証言は証拠にならないという認識ですか。

橋下 閣議決定はそうなってますね。女性記者 橋下さんが証拠にならないという認識ですか。

橋下 証言に信用性があるかどうかです。言ったからといって証拠ではありません。証人が何十人、何百人出てきても信用性に足りるかどうかということが問題で、いろいろ慰安婦の方が証言者としてできましてたけども、それは身売りだったというふうなそういう話も四十何人の証言者のうち半数近くが身売りだったとかいう話だったから、強制的の話じゃないっていつていう整理をされたこともあるわけですね。だから、身売りの話と、ある意味、家と家族と業者の間でのいわゆる身売りの話と、政府が国が強制的に拉致、暴行、脅迫をもって連行したというのは、これはまったく別問題です。女性記者 暴力・脅迫ではなく、だまして連れてきて。橋下 それは誰がだますんですか。

女性記者 あの業者とかも含めて。

橋下 業者は、国じゃないですよ。

女性記者 軍の関与で業者が連れてきている事実がありますが。

橋下 その証拠はないです。出てきていないです。

女性記者 たとえば、そういうだまされたといつて連れてこられたところが慰安所だったという場合も強制にはあたらないと？

橋下 それは日本政府の問題じゃないです。民間業者と慰安婦との問題です。

女性記者 軍の関与で。

橋下 軍が関与していたのはその施設を、秩序の問題から衛生管理上の問題から管理をするということであって、その慰安婦自体を、だまして連れてきたという証拠はないのですよ。

女性記者 それが証言者の証言があったとしても、証拠にならないと？

橋下 だから繰り返し言うてるじゃないですか、証言が採用されるかどうかは、信用性の問題ですから。聞き取り調査をして、信用性があるかどうか、事実と照らして確認するわけです。吉田清治さんの本、なんでしたっけ。「戦争と犯罪」？

要は吉田清治さんっていう人が、自分が韓国で女性を縛をくくって連れてきた、だからごめんなさいと言ったところから問題になってきたわけだね、吉田清治さんがいくら言っても実際に済州島で現地調査をやつたらそういう事実はないかということになって、吉田清治さんがいくら自分はいくつ悪いことやったんだ、悪いことやったんだ、韓国の女性を無理やり連れてきて慰安所で働かせたんだといくら言ったとしても吉田清治さんの言ってることは虚偽ですね、ということになったんです。

だから証言というものは、しゃべったことがすぐ証拠になるのではなくて、その信用性、事実を照らしあわせてどうなのかという信用性をチェックしなきゃいけない。

だからいま日本政府といいますかね、従軍慰安婦の問題で強制連行があったあつたと言っている人たちは、客観的な証拠がないなかで本人たちの証言で「強制連行があった、強制連行があった」と言ってますけど、その証言内容をしっかりと精査する作業をいま日本政府も韓国政府もそこをしっかりとやらなきゃいけないと思いますけどね。

日韓紛争の根底のところにはこの従軍慰安婦問題があるわけですから、日本政府はいま領土問題で激しい応酬を繰り返してますけどもね、激しい応酬を繰り返しても、結論としては韓国の実効支配を覆すってことまではなかなかいかないわけですから、そうであればね、こういう機会をとらえて根っこにある従軍慰安婦問題についてはもう一回、日本と韓国でしっかりと証拠の有無について僕は論戦すべきだと思いますよ。

ここをうやむやにするからいつまでも熟してないんですよ。日本人というか

日本政府としては二〇〇七年の閣議決定、強制連行の事実はないという、そういうスタンスで韓国にのぞむ、韓国は韓国で強制連行の問題なのか、慰安所の問題なのかわかりませんが、日本はとんでもないことをやったことでのぞむ、これは日韓ね、レベルの高い関係になりませんよ。

従軍慰安婦についてはしっかりと強制連行の事実について証拠があるのかどうか確認する、強制連行の事実はない

た場合には慰安婦とか慰安所の存在をどう考えるのか、当時の社会的状況・背景から慰安婦とか慰安所をどうとらえるのかってことをもう一度議論する。この作業が絶対必要です。

九三年の河野談話は、なんかうやむやにしてしまつて、強制を認めたんだか謝つたんだが、何の事実を認めたのか、どの部分について謝つたのかをうやむやにしたような形の九三年の河野談話っていうのは、最悪ですよ。だから二〇〇七年に閣議決定ああいうようにしたんであれば、もう一度、河野談話を全否定しないけれど内容をもう一回、きちんと明確に確定して韓国の言い分を聞いて、証拠のあるなしを日韓でオープンでやりあつたらいいじゃないですか。とことんやっぱり、腹の中にたまっているものを出してね、主張をぶつけ合わないとかね、双方の関係、レベルの高いものにいきませんよ。

ABC木原記者 日ごろ外交問題はわりと慎重な発言されていますが、こういう問題をどうしてそこまでつっこんで話されるのか。

橋下 そりゃやっぱり韓国の大統領が現状維持っていうね、外交の大原則を踏み外したところがありますよ。

野田首相との間でね従軍慰安婦の問題、首脳会談でどういう議論になったのか僕は知りませんが、日本も一九六五年の日韓基本条約で解決済みというだけじゃやっぱり裁判所の形式論、理的な判断の下し方であつて、従軍慰安婦についてどこが問題で強制連行の事実があつたのかどうなのか、いまの日本政府の立場はこうで、じゃあ証拠の有無についてきちんとやりましようよというコミュニケーションがあつたのかどうなのか、僕はわかりませんが、だれか、韓国の大統領も野田

首相もね、きちんとしたコミュニケーションをとらずにどんどんエスカレートしていく。

そんな中でも領土問題について現状維持をこわすってことは、やっぱり僕は韓国側に非があると思うし、それからいまもう応酬合戦になってますけども、やつたところで実益ないわけですから、早くこの部分については終息はかつて、でも言うべきことやるべきことはしっかりとやらなさいといけません。でもそのあとに従軍慰安婦問題、九三年の河野談話と二〇〇七年の閣議決定の整合性と従軍慰安婦の強制連行の事実についての有無はね、これはしっかりとやらなきゃいけない。ほんととは、これにエネルギー割がなきやいけないと思ってるんですね。

だから、本来は大阪市長という立場でいふべきではないけれども、やっぱり現状維持ってものを韓国側が崩してきた、大統領が竹島に、不法上陸ですよ、わが日本の立場からすれば。なんで訪問なんて言葉使うのかわかりません。わが日本国の立場からすれば不法上陸、そうならば根っここの部分については一政治家としてしっかりと発言しなければいけないと思ってますけども、僕は早く隣国どうしなんでね、事態の終息をはかつて、それからやっぱり一番の根っここの部分、従軍慰安婦の問題が両国の国民の心のなかにくすぶっていることは間違いないから、この部分についてね、どうそのくすぶりをおさめていくかといえ、腹にはいつてるものを表に出して、何が問題でこの問題についてはどうなんだというところをはっきりと明らかに、あいまいにせず、決着させるべきだと思つてます。それが、日韓関係をレベルの高いものにする僕は確信しています。

辻淳子議員第一〇八代大阪市会議員就任祝賀会

平成24年5月30日、第108代大阪市の会議員に就任された、辻淳子大阪市の会議員(大阪維新の会市会議員団副団長)の就任祝賀会が800人の大参加者をお迎えし、9月2日ホテルニューオオタニで行われた。挨拶(というより講演会)にたった橋下市長は、「西成を変える。特区と言えは聞かえがいいが要はえこ鼻頂。徹底的にやる・その後えこ鼻頂ということばを5、6回使用。そして大阪を変える。それがいいは日本が国際的に名誉ある地位を得ることになる。」と話された。

話は例の調子で、特にお祝いの席ということもあるのだろうが、ジョークとユーモアの連発。抱腹絶倒の漫談であった。橋下亭徹奴! さて、市長の漫談の中から、ジョークとユーモアを取り除くと、まさに弁護士政治家。論理的、数学的に構成された話。一点豪華主義で西成を特区にし、徹底

寺田静雄後援会会長に挨拶



的にえこ鼻頂をし、大阪のお荷物のように言われた街をよみがえらせる。それは天王寺区や阿倍野区ではダメ。西成にはあいりん地区がある。ここを改善しなければ大阪が蘇ったとは言わない。さらにそれを大阪中に広げ、いいては日本中に広げる。そして最後は憲法の前文を引用し締めくくった。

大変格調のある漫談、失礼。お話であったと気づいた人は私だけではないだろう。テーブル越しの一部を紹介したい。
~~~~~

辻先生 議長就任おめでとうございませう。いま大阪市議会では誰が原因か、もめることが多くて、議会を開けば夜の12時をすぎること多くなっております。ヤジがひどくてですね。これまでの市の幹部に聞きますと「ヤジに耐えるのも市長の仕事です」とのこと。しかし

中曽千鶴子が百人の会を代表し花束贈呈。さすがのおつるさんも緊張のあまり顔が引きつっている。



私は、そう大人になれませんでした、私は、ヤジにはヤジで応酬しています。すると辻先生に怒られるんですね(苦笑) 辻先生ものすごい声が綺麗じゃないですか。その綺麗な声でびしゃりと言われると傷つくんですね(苦笑)。いつも辻先生から「答えを短く、簡潔にしてください」と言われるんですね。これを言われるのは、辻先生と妻だけなんです(苦笑)。この夏、いろいろありまして、いまだに嫁にはいろいろ説明しているんですが、まだ足りない。そうするとあんだ

百人の会、辻淳子理事長を囲んでパチリ。ボクが映ってない。そうか、ボクが写したのか(増木)。



は長い。事実を簡潔に、と言われるんです。議会より、家庭内議会のほうが厳しいですね。たぶん一勝続くんでしょう。《9頁4段目に続く ↓》

市長、人前でスポンを上げないの。ご挨拶(講演)が終わって降壇中



川村市長が「ごま」をナンパしたのか、ごまが市長をナンパしたのか。アカン! 市長の目が据わってる。





# ソ連の侵攻を称して侵略と言った

東防人を励ます会 本部理事 奥中正之

伊勢雅臣氏編集の「国際派日本人養成講座」を読んで 2012-9-2

下記で紹介されているようなソ連の侵攻を称して「侵略」と考える。相手が戦う意思も用意もないのに、一方的に戦端を開き、相手国の領土を奪い、その地に住む無辜の住民の生命と財産を奪うのが「侵略」だと考える。

昭和20年8月14日、日本はボツダム宣言を受諾する旨を連合国側に通告し、「これ以上戦う意思のない」ことを明確に表示した。にも関わらず、ソ連はヤルタ協定の密約に基づき、アメリカからせしめた多量の武器を投入し、ドイツの敗北で不要となった兵員を極東に回し、突如陸・海・空の三方面から日本に襲いかかった。「樺太真岡郵便局悲話」を描いた映画「氷雪の門」を鑑賞したが、映画の中に、ソ連の軍事侵攻を国際法違反として攻撃の中止を現地日本軍の司令官がソ連軍に要求するが、ソ連は「敗戦国に国際法は適用されない」とこの要求を一蹴する場面とか、真岡の第一線で、白旗は掲げて、降伏の意思表示に出向いた日本軍将兵に対応したソ連兵が「二エツト」と日本軍の降伏意思表示を一方的に拒否し、丸腰の日本将兵に発砲して全員を射殺する場面などが出てくる。

不思議な事に日本共産党をはじめとして左翼勢力の連中は、ソ連の侵略行為については一切口をつぐむでいる。しかし一方日本が侵略戦争をしたと繰り返し強調する。

日本は支那を侵略などしていない。シナが仕掛けてくる戦いに応戦するうちに、するすると深みにはいりこんでしまった。シナ大陸を侵略しようと思えば、必要な軍事力の投入計画と、膨大な兵員を拡大大陸に侵攻させるための補給計画の策定が必要である。そのようなものは日本にはなかったし、第一そのような国力が日本にはなかった。また左翼はアジア諸国を侵略したと言うが、日本は自衛のために米・英・蘭と戦ったのであり、その戦いのために白人が植民地としていたアジアの各地に駐留していた米・英・蘭の軍隊と戦い、そのために不幸にして白人の植民地が戦場となったのである。

ここで、次の図書を紹介したい。「なぜアメリカは対日戦争仕掛けたのか」加瀬英明&ヘンリー・S・ストークス 共著 祥伝社刊

加瀬氏は歴史事実を時系列に並べ、要所で彼の考えを披歴している。新書版に纏めらコンパクトで、簡明な記述となっており、実に読みやすく且つ分かりやすい。正しい歴史を理解し、今後の生きる智慧の糧となる内容を持った良書である。わが国はアジアを侵略したとか、シナを侵略したとか考えの方にとっては必読書である。加瀬氏の持論に反対ならば、加瀬氏論を支える事実として挙げられた記録について、自ら一次資料に当たって検証されることをお勧めする。

日米開戦前の日本の対米和平努力の軌跡を上記図書で再確認すると、日本を

一匹の猛犬と例えれば、中が丸見えのガラスの檻に猛犬を閉じ込め、突っ込んだ棒切れで犬の尻や腹をチクチクとつつき、猛犬をけしかけて、棒切れの先に食いつかせるようにアメリカは日本に対応したと、私は例えたい。

アメリカは日本の外交文書の秘密電報を全て解読していた。また海軍の暗号電報もかなりの程度解読するのに成功していた。ということは、軍事大国に挑んでも到底勝ち目のないことは良く分かっているのに、懸命に戦争を避ける外交交渉をアメリカと進めようとする日本の国家政策を手に取るように理解しながら、時間稼ぎをした上、最終的に日本が到底の呑むことが出来ない内容を持つ、ハルノートをも日本に突きつけ、坐しても死、戦うも死。いずれにしても死ぬならば、乾坤一擲！死中に活を求めて（＝自衛のために）日本から対米一撃を放たせたアメリカの巧みな外交戦術が浮かび上がる。

加瀬氏はその経緯を次のように語る；「日本は日米交渉に当たって、アメリカも日本と同じように誠がある国だと思っ、相手の真意を疑うことなく、独り芝居を演じた。」そして、歴史を今日生きる知恵とする一例として、「今日でも日中友好」が成り立つと信じて、中国と良好な関係を結べると信じている、お人好しな人々がいる。」と書かれている。「賢者は歴史に学ぶ」（ピスマルク）を結語としたい。

■■■■ 国際派日本人養成講座 ■■■■  
国柄探訪： 職務に殉じた9人の乙女

～ 樺太真岡郵便局悲話

ソ連軍の迫る中で、9人の乙女は電話交換手として最後まで職務を果たそう

《 ↓ 8頁4段目末尾より》

さて、これから大阪市議会が始まるわけですが、みなさん大阪都構想。2年9ヶ月かけて、大阪都構想の法案が成立しました。

大阪市、大阪府のことはどうするか長年議論されてきた。しかし「議論ではダメだ。行動しよう。」と真つ先に手を上げたのが、坂井（良和）先生と、辻先生、松井先生なわけです。もう話をする段階じゃないでしょう。やらなきゃダメでしょ。議論じゃ何も進まない。140年前、明治維新、いろいろな議論があったんでしょね。外国を受け入れるのか鎖国を続けるのか。議論しても答えは出ない。（開国の）経験が無いのだから。やるかやらないか。それで維新のメンバーは行動を起こしました。

そこで、課題が多い街、西成に予算を投入した。えこ鼻腹です。よくほかの地域の議員が納得してくれた。大阪市全体でやったら金が足りない。先ず西成からだ。皆さんの協力を得て西成のえこ鼻腹政策が始まっています。きれいに言ったら西成特区構想なんです。結核対策や教育バウチャー、どんどんやっていきますよ。そして徐々に大阪市全域に広げますよ。また、大阪全域から生徒が集まるようなスーパー一貫校も作ります。

東日本大震災で、東京は大きな影響を受けた。もう1回このようなことが起きたらわが日本どうなりますか。そこでもう1つ東京をバックアップできる大きな都市が必要。東の東京、西の大阪が必要なんです。それができるまで区長は公募する。現行では区長は局長の下。これでは意見を言えない。上下を変えまして。そして予算を付ける。区長を中心に街を作る。橋下は忘れてくれ。

と、決心した。

■1. 「町民のために最後まで責任を全うしてくれた」

先の東日本大震災の際に、宮城県南三陸町で、身を顧みずに、防災対策庁舎から「6mの津波が来ます。避難して下さい」と放送し、多くの町民を助けた女性がいた。防災放送の担当職員の遠藤未希さんにも。

未希さんが放送をした3階建ての防災庁舎は、津波に吞まれ、赤い鉄筋だけが残された。放送は途中で切れ最後の方は声が震えていたという。避難所に逃げた女性の多くは「あの放送でたくさんの方が助かった。町民のために最後まで責任を全うしてくれたのだから」と思いやった。

遠藤未希さんの行為は多くの人々に、終戦時ソ連侵攻下の樺太・真岡で電話交換手として最後まで職場を護って殉職した9人の乙女の物語を思い起こさせた。

■2. 「戦争が終わってすでに五日もたっているんだ」

あの朝、昭和20（1945）年8月20日の午前6時頃、樺太西部の港湾都市・真岡は深い霧に覆われていた。5日前に終戦の詔勅が発せられ、港にはソ連軍の侵攻の前に婦女子を北海道に避難させるための船がぎっしり並んでいた。それらの船には北部から逃げてきた女性と子供がすでに乗っていたが、さらに乗り込もうと、リュックをかついだ人々が、霧の中を港へと坂道を降りて行く。そこに、黒っぽい、一見してソ連艦船とわかる大きい軍艦2隻と、駆逐艦ほどの船2隻が湾内に入ってきた。真岡郵便局の上田豊局長は、すでに真岡北方の監視哨から「ソ連軍艦らしいのが、4、5隻、真

岡に向かった」と連絡があった、この報告を電話交換室監督の高石ミキさんから受けていた。

敵艦の甲板にはぎっしり兵隊が並んでいたが、敵前上陸のような緊迫感を感じられず、上田局長は「ああ、何ともなくすみそつだ。戦争が終わってすでに五日もたっているんだ」と思った。しかし、その1、2分後に、大地を揺るがせるような砲声が轟き、追いかけるように、機銃がいっせいに火を吹いた。それまで道ばたに立って珍しげに港湾を見下ろしていた市民が、撃たれて倒れるもの、あわてて身を伏せるものもふくめてバタバタと、将棋倒しに倒れるのが見えた。

■3. 「崇高な使命感」

その4日前の8月16日、上田局長は豊原通信局から、女子職員を緊急疎開させるよう指示を受けていた。局長はすぐに女子職員全員を集めて、その旨を申し渡した。ところが、電話担当の大山一男主事が「全員が引き上げに応じない。そして局にとどまることを血書嘆願する」といって、準備をしているようです」と報告してきた。上田局長は直ちに女子職員を集め、ソ連軍が進駐したのちに予想される事態を語り、説得した。ソ連兵が占領した地で、略奪暴行を繰り返すことは、よく知られていたであろう。

しかし、女子職員全員が「電話の機能に止まった場合どうなるか、重要な職務にある者としてそれは忍びない」と主張して譲りなかった。確かに、ソ連軍が迫る中で、一人でも多くの住民を安全に引き揚げさせるためにも、電話は欠かせない手段であった。

上田局長は感動したが、その決意を是認することはできなかった。引き揚げ船

を確保し、それが真岡に入港したら、命令で乗船させようと決意した。しかし、その前にソ連艦船が来てしまったのだ。

上田局長は後に回想文に、次のように書いている。

あらゆる階層の人たちがあわてふためき、泣き叫び、逃げまどっていたなかで郵便局の交換室、ただ一カ所で、彼女らがキリリとした身なりで活動を続けていたのである。このようなことが他人の命令でできるかどうか、その一点を考えてもわかることだ。崇高な使命感以外にない。

「他人の命令」云々というのは、戦後、彼女らが軍の命令で職場に残された、というデマが流されていたことに対する当事者として反論である。

■4. 親への最後の甘え

「ああさん、これ私の形見。預かっておいてね」そう言って、電話交換手の一人、可香谷シゲさんは、母親のあささんに白い布包みを差し出した。貯金通帳、写真のほか、シゲさんが日ごろ大切にしていた品々が入っていた。ソ連軍侵攻の前日、19日朝のことである。

「どうしたの、急に・・・」と、あささんが、げげんな顔をする。 「ううん、なんでもないの・・・」と言って、シゲさんは防空頭巾を背にくくりつけると飛び出していった。

この日は沖合に白波が立ち、北の奥地から二艘のハシゲで避難してきた人たちが、真岡で下船して第一国民学校に仮泊するために坂道をあえぎながら登っていた。夕方、シゲさんから電話がかかって

きた。「おかあさん。晩ご飯のおかずがないの。なにかあったら持ってきてよ」「ああいいとも。おとうさんがあとでタバコを買いに行くというから、何か持っていったらうから」

娘のなんの屈託もない声にほっとする思いで、あさは受話器をおいた。ところが、急に深い霧が湧き起こり、日が暮れるとソ連の空襲に備えて灯火管制をしている町は一寸先も見えない闇となり、おかずを届けることはできなかった。

いまになると、あれがシゲの最後の願いであったわけで、それを聞いてやれなかったことを思うと・・・死を思いつめていた娘は、最後に親に甘えてみたかったのでしょうか。かわいそうなこと

後に、あさは、こう語って声を止まらせた。

■5. 「武ちゃん、もう会えないかもしれない」

同じく19日、交換手の一人・吉田八重子さんの家では、翌朝の船で北海道に疎開する予定で、荷造りを進めていた。しかし職場に残る八重子さん一人を残していくことに、家族は気が重かった。母親は、八重子さんの大好きなおはぎを作った。中学3年の弟・武さんがそれを八重子さんが働いている郵便局に届けた。すでに辺りは暗くなりかけていた。局の階段を上って、交換室の戸を開けると、八重子さんは入り口に背を向けて交換台についていたが、戸の開いた音に気がついて、振り返ると、そこに弟がいるのを見て、近づいてきた。

「ねえさん。これ、おはぎだ。荷造りも



終わったし、かあさんが最後のご馳走に、ねえさんの好物をつくったんだ」と、重い包みを差し出した。

「ありがとう。武ちゃん、こんなに。重たかったでしょう」

弟に礼をいって包みを受け取ると、ちょっと間をおいてから、低い声で「武ちゃん、もう会えないかもしれない。からだに気をつけて、しっかりやるんですよ」と言っ、涙ぐんだ。

「うん、ねえさんだよ」 死を決した姉の言葉とは知らず、武さんは軽くうなづいて局舎を出た。

後に、武さんはこう語っている。

生前の姉たちにあつたのは私が最後であつたかもしれません。姉のあのあらたまっていたことは以外は、ふだんと変わらない交換室の空気でした。死ぬとわかっていればむりにでも連れもどしたものをと思うと残念だ、くやしいと思うのですが、死を覚悟しながらふだんと変わらぬ表情、動作であつたあの人たちの姿はほんとうに立派なものでした。私の届けたおはぎを、みんなで分け合つて食べさせてくれたらうと思う。死出の旅にささやかなご馳走であつたが・・・

■6. 「敵の船が見える。かあさん、とうとう・・・」

20日早朝、可香谷あささんは、シゲさんからの電話を受けた。それがわが子の最後のことばとなつただけに、あささんは忘れることができない。

敵の船が見える。かあさん、とうとう・・・。いちばんよいものを着て、きれいに死んでね。鈴木さんにも知らせて・・・

あささんが、付近の家に「シゲからソ連の軍艦が見えるといつてきた」とあわてて飛び込んでいった瞬間、頭上にもものすごい弾道音がとどろいた。

真岡の東、内陸部にある清水村逢坂の広瀬郵便局長夫人きみさんは起き抜けに、「ゴーゴーという遠鳴りを耳にして、遠雷だと思った。交換手をさらに内陸部の豊原に避難させた後、きみ夫人は一人で交換台についたが、真岡から豊原の師団司令部へ火急を告げる連絡電話を傍受して、遠雷ではなく、敵の艦砲射撃であることを知った。

真岡局を呼ぶと応答があつた。可香谷シゲさんの声だった。しかし、その声は銃砲声にかき消されそうになるほどだった。「外を見る余裕なんかないのよ」シゲさんの悲痛な声は、いまでもきみ夫人の耳朶(じだ)にこびりついている。その頃には、ソ連軍が上陸し、自動小銃や機銃を浴びせながら、市街に侵入していたのであろう。きみ夫人は、その後も断続的に真岡を呼んだが、砲撃で回線が切断されてしまったのか、午前6時半頃には不通になってしまった。

■7. 「長くお世話になりました。おたっしゃで・・・」

真岡の北方にある泊居(とまりおろ)局との回線はつながっており、真岡の各所で火の手があがる様子が伝えられた。銃砲声の中で、弾雨にさらされている9人に危険が刻々と迫っていることが感じられた。交換手の一人、渡辺照さんが「今、みんなで自決します」と知らせてきたのは、所弘敏局長の記憶では午前6時半ごろだという。

「みんな死んじやいけない。絶対、毒をのんではいけない。生きるんだ。白いも

のはいないか、手ぬぐいでもよい、白い布を入り口に出しておくんだ」

所局長は受話器を強く握りしめて、懸命にさげんだ。声だけで相手を説き伏せられないもどかしさ。しまいには涙声で同じ言葉を繰り返した。しかし、その声をひとときわ激しさを増した銃砲声が吹き飛ばした。

高石さんはもう死んでしまいました。交換台にも弾丸が飛んできたし、もうどうにもなりません。局長さん、みなさん・・・、さようなら、長くお世話になりました。おたっしゃで・・・、さようなら・・・

所局長も交換手も顔をおおって泣いた。無情にも電話は切れた。誰かが「真岡、真岡、渡辺さん・・・」と叫んだが、応答はなかった。

■8. 職務に殉じた乙女たち

上田局長は郵便局に向かう途中で銃撃を浴びて負傷し、その後、上陸したソ連軍に海岸の倉庫に連行された。倉庫内には血みどろの負傷者がその後も運び込まれたが、何の治療もされず、翌21日朝には局長の周囲にいた重傷者の多くはすでに冷たくなっていた。

そんな中で、上田局長は「宿直の交換手全員が自決したらしい」と耳にして、「ほんとうか」と聞ききつつも、眼からみるみる涙があふれ、嗚咽が漏れた。

23日になって、見回りに来たソ連軍将校に、部下局員の遺体を引き取るために局舎に入ることを認めてほしい、と訴えると、将校は「私が連れて行く」と言うてくれた。

局舎に着き、交換室の戸をあけると、

真っ先に目に飛び込んできたのは、監督の机の前に倒れている高石ミキさん(24歳)の遺体だった。机の上には、その日の交換証のつづりと事務日誌がきちんと重ねられて、そのわきに睡眠薬の空き箱が二つ転がっていた。

吉田八重子さん(21歳)はプレススト(交換手用のヘッドセット)をつけ、交換台にプラグを握ったまま、うつ伏せになっていた。

隣の渡辺照さん(17歳)も同じくプレスストをつけ、コードを握って、横倒しになった椅子の上におおいがぶさるようになつて倒れていた。二人とも、薬物を飲んで、薄れ行く意識の中で、最後の瞬間まで、交換台で仕事をしていただろう。

他の乙女たちは部屋の真ん中で、肩を寄せ合うように倒れていた。室内は、いつものように整然としていた。しかし、交換台には、5、6発の弾痕があつた。

上田局長は膝まついて慟哭した。同行したソ連将校も、静かに胸元に十字を切つて瞑目した。職務に殉じた乙女たちを見たとき、そこには敵味方も、人種の差もなく、人間としての崇敬の気持ちがあるだけで、と上田さんは思った。

(文責：伊勢雅臣)

◇ 私が敬愛する、山本明翁(60)。シベリア抑留10年、最後の帰還兵だ。翁は情報将校。よく「抑留のベテラン」などとふざけるが、立場が立場だっただけにシベリアで地獄を見てこられたのだらう。氏は大変温厚なジェントルマン。しかし氏はよく「ロスケ」と言つ。差別と、蔑視を込めて。そしてその瞬間目が憎悪に変わる。それがソ連兵のすべてだと思ふ。

増木

# 朝鮮総連の思惑―日朝友好

曲がり角に來ているのか朝鮮総連 救う会大阪 増本重夫

弊紙「33号」で『金剛山歌劇団』が今後あちこちで公演し、それに地方自治体が後援する記事を書いた。金剛山歌劇団は北朝鮮の日本営業所朝鮮総連の直轄の工作活動集団。今の時世、彼らの活動をどうして容認できよう。関西では10月26日、西宮芸術劇場で公演。後援するのは尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、そしてそれぞれの教委。とりあえず前記自治体に抗議。今、日本と北朝鮮がどういふ関係かわかっていないのではないかと思う。そして、元社会党の委員長、北朝鮮とたいへん深い関係にあると

言われている、土井たか子女史の愛弟子、中川智子現宝塚市長に8月23日、市役所前で「おつるさん」こと、中曾氏等の応援を得て街頭抗議をした。

そうすると翌日、朴さんという人から電話があった。「あなた方は誤解をしている。・・・」という。穏やかな紳士的な物言い。電話で話せるようなことではなさそうであり、怖いもの見たさの好奇心がむくむくと目覚め、まさか殺されることもあるまいと思いついて「一度お会いしましょう。」と面談を求めた。相手も望むところのようであったようだ。

数日後、約束の場所に出向いた。特に申し合わせたわけではないが、私も一人、相手も一人。名刺交換をした。相手は兵庫朝鮮学校の重鎮、総連の幹部のよう

だ。エライやつが来たなと思ったが、紳士。代表者が自分の名前や素性も言えず、「朝鮮人を日本海にたたきこめ」などと騒いでいる、某団体よりとはよほど信用できる。

彼が言うには日朝友好がもっとも大事、だからその一環である『金剛山歌劇団』の講演を静かに見守ってほしい。というのである。私も友好はやぶさかではない。しかし『拉致』という現実がある以上、『友好』などは論外。と申し上げた。彼は「拉致は重大な犯罪。首領が犯人を嚴重に

処分した。」と言う。しかし到底納得はできない。できるわけが無い。彼が言うには友好な関係の中から拉致は解決すると言う。そこで私は「思いつきで悪いが公開で討論会をしよう」と話した。「いいつも応じる。これにはびっくりした。今まで日教組や解放同盟に何回も申し込んだが全て断られた。『朝鮮学校を見学

できるか。」「いつでもどうぞ。」「近々に討論会や学校見学をしようと思っている。パネリスト募集。条件は①ある程度歴史がわかり、②冷静で③偏見の無い人。もちろん10月26日の抗議街頭署名は予定通り。それはそうとして、彼らが何を考えているのか、対話をしていくことは意義があるような気がする。

## 活動資金の協力をお願い

【J支援等の口座】  
郵便振替 0008082459547 MASUKI 情報デスク  
三愛東京 JCB 銀行 中野支店 004349 普通 増本重夫

まずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。このレポートにもありますように、私どもは子供達に誇りある国を残すため、日々命がけで戦っています。ところが問題は活動資金。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

※ この、M情報機関紙は新聞の形態をとっています。が、「活動の報告書」です。特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしくお願ひいたします。

○ カンパ金の主な使途は下記団体の、  
・ 活動の資料等の発送費・道路、公園

## 原稿・同封資料の募集について

弊会『M情報活動報告』は現在のところ毎月月初めに全国約5千(目標1万)部発送しております。掲載ご希望の論文、情報等ございましたらどんどん表記事務所

## 諸情報のメール配信について

弊『M情報』では、日々、全国各地の仲間から、または情報収集の専門家から情報が送られてきます。それをメールで転送します。内容はどこよりも詳しく多種多様。「量が多過ぎとお叱りを受けるのですが、

使用申請料等・交通費、通信費  
資料、ビラ等の制作費・備品購入費  
○ M情報が運営を行っている主な団体  
・ 救う会大阪・NO! 民主「桜組」  
・ 靖国神社に眠る御霊に感謝する会  
・ 米国に原爆投下謝罪を求める会  
・ 大阪の公教育を考える会  
・ スパイ防止法の制定を求める会  
・ 外国人参政権に反対する会・関西  
・ 日教組の違法行為を追及する市民の会  
・ 竹島を奪還する会・関西  
・ 改憲祈念の会  
◇ 前記口座、または同封の郵便振替にてご協力ください。

## 原稿・同封資料の募集について

までお送りください。また、弊紙は郵メーイルで発送しています。重さ制限は50gです。まだ余裕がございますので、資料等の同封が可能です。ご相談ください。

## 諸情報のメール配信について

試しに一度受信してみてください。ご不要でしたら即停止いたします。要領は次のアドレスに「メール希望」と空メールを(発信名義「NPO 法人百人の会」)。  
h100ps@oregano.ocn.ne.jp



H24-8-23 宝塚市役所の前で街頭演説の増本